

## 第3回 野津原中学校区適正配置地域協議会 会議要旨

日時：平成 26 年 10 月 2 日（木） 19:00～20:30

場所：野津原市民センター 大会議室

○出席者 27名

### 1. 開会のことば

- ・ 秋吉副会長より、開会のことば。

### 2. 会長あいさつ

- ・ 分藤会長より、開催にあたってのあいさつ。

### 3. 議事

#### 1 統合について

##### (1) 統合についての意見

<各校区の主な意見>

【東部校区】保護者に対して、統合について回覧という形で意見を伺ったが、あまりピンときていないようだ。ただ、通学手段がネックになるのではと思っている。低学年と高学年では下校時刻が異なってくるので、帰るときどうするかについて考えることが一番大切ではないかと思う。

昨年度行ったPTAのアンケートでは、統合について「知っている」が37%「なんとなく知っている」が53%「知らない」が10%という状況であった。また、統合についてどう思うかについては、「いいことだと思う」が24%「仕方ない」が69%「あまり賛成できない」が6%という結果になった。そうした中、小学校がなくなると過疎化が進むのではないか、少しでも人数の多いところで学校生活を送る方が子どもも楽しいだろうし、刺激があつていいのではないかという意見などがあつた。

【中部校区】PTA会員の中では、「賛成」や「どちらともいえない」という意見もあるが、数としては「反対」が多い。理由として、若い世代が定住しにくくなるのではないか、小学校がなくなることこちらに帰ってこようとする若者が少なくなるのではないか、地域と子どもの関係が今より悪くなってしまふのではないか、小学校には歩いて登校してほしい、といった意見が出ている。また、中央幼稚園がのつはるこども園となったときと同じようなことにならないよう、送迎についてはしっかり話をしていただきたいと思っている。送迎について、具体的にバスが行き2便、帰り3便とかいうところまで考えてくださっている方もいる。このように、中部では送迎についての不安が一番大きい。

【西部校区】できることなら、なるべく統合はしたくないという意見も出ているが、統

合をすることについては、仕方がないことだという方向で話し合いをしている状態である。子どものことを考えると、やはり人数が多い方がいいのでは、という気持ちはある。

統合は、もう決まっていることなのでそれが何年先になるかをはっきり決めてほしい。また、PTAも統合がいつになるかわからないと運営が厳しい。通学についても西部はPTA会員が少ないため、パトロールや交通見守り隊のような活動ができないので心配である。

## (2) 意見交換

### <主な質疑応答・意見>

【議 長】 のつはるこども園のことで話があったが、これについて何かあるか。

【委 員】 最終的に、意見は反映されている。しかし、最初の説明会が報告会のようなものであったり、改善点を出したり質問をしたりしても、一度持ち帰ってからとなり、しかもその回答が出るのが遅かった。だから、今回はきちんと話をしたいということで言わせてもらった。

【議 長】 小学校施設はかなりいい状態で、利用価値があると思う。地域の活性化という観点からも、統合後の施設や跡地の利用について、皆さんと一緒に考えていかなければならないのではないか。

【委 員】 「統合については賛成だが、小中一貫の併設型の新設校を作るということなら早くやってほしい。もしそうでないなら慎重に協議する必要がある」という声がある。新設校はないという話だったが、いずれかのタイミングで新設校ということはこの協議会で考えた方が良いのではないか。

【委 員】 小さな子どもがいる親から、「2・3年のうちに東部と一緒になるのなら、1年生から東部小に行った方がいい。しかし、生活はここですべてしているので地域の方とのつながりを持つことができにくくなるのが気になる」という話を聞いた。親は生活基盤から本来の校区の学校に行かせるのか、それとも東部に行かせるかで頭を悩ませている。

【議 長】 小学校1校、中学校1校となるのでいずれは賀来小中学校のように小中一貫の併設型新設校にしたいという要望がある。そういった意見について、この協議会の中で話し合うことは可能か。

【事務局】 この協議会は、3小学校の統合という形の下で規約が成立し、スタートしている。中学校に関してどうしていくかは基本計画の中に入っていないため、この協議会でしていただくのは、3小学校の統合についてだということをご理解していただきたい。ただ、報告書の中に将来こうしたいというようなことを、要望として入れることについては問題ない。

【委 員】 東部や中部から統合について「よくわからない」という意見が出ていた。何が違って何が変わらないか明記されていないので、ぼんやりしたイメージしかできていないから、曖昧な考え方になっているのではないだろうかと思う。

【議 長】 東部小に中部小・西部小を統合するということが、統合後に校名等が変わ

るといったことはあるのか。

- 【事務局】皆様方の協議次第ということになる。皆様方の要望として、学校名や校歌、学校行事等について決めていくことについては構わない。
- 【委員】野津原小学校という新しい学校ができる、ということで考えていった方が感覚的に考えやすいのではないだろうか。野津原全域が通学区域になる、と考えると、校区も広くなるし地域情勢も変わってくる。それに対応しないといけないので、いろいろ考えて作っていかなければならないとなり、意見が出やすくなるのではないか。
- 【委員】実際に野津原中学校も今市中学校と統合している。学校名は野津原中学校だが校歌も変え、改めて新しく学校を作ったというような状態を作っている。その方が実際には入りやすいのかなと思う。
- 【委員】まずは、中部校区と西部校区から出た反対意見を、ある程度クリアしていかなければならない。私達は各校区の代表としてここに来ているのだから、そういった反対意見にある程度話ができる状態にしなければいけない。校名等については後で決めていけばいいだろう。
- 【委員】子どもは統廃合という言葉自体には慣れていないが、人数が増えるということがとても嬉しいようで、気持ちがとても高揚している。子どもは統合についてマイナスの考えだけでなく、喜びも感じているようである。祖父母は「ちょっと学校に行こうというとき、すぐに行けるような状況なのに、統合したら、孫の学んでいる姿を見られなくなって寂しい」と言っている。私達委員は、子どもと話をし各校区の親や子どもの声をきちんと伝えることが役目だと思っている。実際に統合となったときに、お互いがいい関係で学んだりしていけたら良いと考えている。
- 【委員】中学の保護者は、すでに子どもが社会人になっている方もおり、小中一貫の新設校を作る可能性を考えて、若い世代がどうしたらこの地域に住める未来があるのかというような先のことについて考えたいと思っている方が多い。目先の問題も大事だが、子ども達のこれから、野津原の教育環境全体を見通したプランニングというのが必要と考えている。
- 【委員】校舎の建替えの順番がまだ来ないから、すぐに新設校はできないという話だが、過疎化・高齢化が進んでいる状態で学校の建替えがない可能性もある。確かに順番というものはあるだろうが、野津原をどうしたいのかということ考えたときには、優先的にやってもらいたいというのが本音ではある。
- 【議長】統合したことで、保護者や地域の方が来られないというような話もあったが、そこまで心配していたらもう何もできなくなってしまう。
- 【議長】30年ごろまでに統合となっているが、統合をいつごろするかについて何か考えはないか。以前、27年度中に結論を出して28年頃に統合しては、という意見があったが。
- 【委員】あまりに短いと、話がまとまらないまま統合となってしまう。
- 【委員】統合に向けて協議会を立ち上げ、統合は決まった。時期をいつにするかは先送りにすべきではないという意見は大変ありがたいが、あまり急ぎすぎても

話に変な方向にいつてしまう。協議会として、27年度に意見をまとめたいたいということであればいいのではないか。

## 2 今後の協議内容について

### <主な質疑応答・意見>

【議長】何年に統合するかについては、27年度中に考えてはどうだろうか。

【委員】まだそこまで協議はできていないが、目標は決めなければいけない。ただ、協議会の中である程度問題を解消しないと決められないので、28年度を目標に、統合したうえでの中身等を決めていければいいのではないか。ただ、いつ統合するか目標を作るのは早い方がいいとも思っているの、28年、または29年くらいまでにするという形で持っていけたらいいのではないか。

【事務局】皆様方を出していただいたご意見から統合の時期や通学、残された校舎の跡地利用といったものが今後の協議の柱になると考えられる。また、野津原中学校と今市中学校が統合して、新たな歴史を歩み始めたというお話から、統合した3小学校と一緒に歴史を踏み出していくという、統合の形についても協議の柱にできればいいのではないかと思う。先ほどから統合の時期を早く決めようとしているのは、統合の手続きには時間もかかるし、結論を明確にし、目標を持って皆が一同に統合に向けて協議をしていくのに必要だからだとは思。しかし、統合の時期だけでなく、通学、校舎の跡地利用といった協議の柱についてのご意見をいただければと思う。

【議長】他にこれからの協議の柱になるような意見があったら伺いたい。

【委員】地域のつながりといったところで、問題が出てくると思う。統合したあと、今と同じような形でつながりがとれるかと考えるとそれは厳しい。各小学校でしている地域交流会等の活動についても統合後に本当にできるかを考え出すと少し難しいかもしれない。

【委員】私は、統合まであと3年くらいは協議が必要だと思っている。もし、もっと早くに統合を、ということであれば分科会のようなものを作り並行して協議する必要があるだろう。途中で統合というのは、子どもたちのことを考えるとできるだけ避けたいが、今の西部小の状況を見ると途中で統合ということも視野に入れておく必要があるかもしれない。

【委員】協議の柱として時期、通学、施設の利用、統合の形が出されたが、保護者がどれを一番重視して考えるかといえば、やはり通学のことだと思う。ここがクリアできれば統合に快く賛成するという人もいるので、そこから入っていった方がいいのではないか。次回までに各校区で意見を伺い、この協議会で答えが出たものについて地域の人に返せるといいと思う。

【委員】統合に対して賛成か反対かという次元ではもうない。統合することは決まっているので、統合するに当たってどういった要望があって、どういうことをしてほしいのかを決めた上で動いた方がいいと思う。

【委員】地域へのアンケートで、より良いものを作るために何が必要かを聞こうと思

う。

【委員】中部の意見で、学校でスクールバスを持たないかという意見が出た。通学について、路線バスを使うパターン、こども園のようにジャンボタクシーで行くパターン、学校としてスクールバスを持つというパターン、これらは全部は可能なのか。やはりスクールバスは無理だろうか。

【事務局】協議会が始まる前の準備会の段階では、スクールバスではない方がいいという意見も出ている。できるかできないかは、報告書の合意事項や要望事項として出してもらってからの話となる。

【議長】バスの問題は、日を改めて話をした方がいいのではないかと。また、私個人としては、大分バスの便数を増やしてもらった方が、野津原のためにはいいのではないかと考えている。

【議長】通学の問題については、一度持ち帰って地域の方たちと相談し、次回協議するということをお願いしたい。

○通学について地域に持ち帰って相談し、次回の協議会で意見を出していただくことにする。

### 3 その他

- ・事務局より、地域協議会の次回の日程について説明する。

○第4回地域協議会を11月27日（木）の19：00～20：30、野津原市民センター大会議室で開催することを確認する。

### 4. 閉会のことば

- ・佐藤副会長より、閉会のことば。